授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：戦争と哲学―アラン『裁かれた戦争』（1921年）を読む ILAS Seminar :War and Philosophy --- With "Mars"(1921) by Alain	担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 助教　　田中　祐理子

群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・開講期	2017・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	人文科学研究所本館3階研究室314号室 (本部構内)	使用言語	日本語及びフランス語（未習者可）		
キーワード	ヨーロッパ哲学 / 20世紀史 / 戦争 / 哲学者アラン						

[授業の概要・目的]

このゼミでは『幸福論』で知られるフランスの哲学者アラン（1868-1951年）が、第一次世界大戦に兵士として従軍した体験に基いて書いた断片集『マルス―裁かれた戦争』（1921年）を精読する。基本的に、この授業では、以下のような手続きでテクストに接近していきたい。
①この書物の書かれた背景を理解するために、まず哲学史上でのアランの位置づけを確認した後で、ヨーロッパが第一次世界大戦に向かう歴史的経緯と、そのなかでアランがどうしてこの戦争に従軍という形で関わることになったのかを確認しておく。
②そのうえで、『マルス―裁かれた戦争』に収録されている断片の数々が、大きく分類して、いかなる主題を論じようとしているのかを探ってみる。戦場で書き溜めた断片を集めて編集しなおしたアランの思考を追いかけながら、この書物の構成が伝えようとしていた主張を参加者同士で話し合いながら考えてみる。
③それらの主題に添って、数編ずつの断片を丁寧に読み進める。主題ごとに何が問われているのかを考え、それに対してアランがどのような答えを提示しているのかを探ってみよう。
最後には、アランの議論をもとにして、自分たちの「戦争と哲学」について論じる。

[到達目標]

・20世紀初頭のヨーロッパ史を背景としながら、哲学史上の転換点として一人の哲学者について詳しく考察することができるようになる。
・一つの文献を丁寧に読み、テクストとして使用する日本語訳を、折々にフランス語の原文とも照らし合わせながら、文章表現についても学ぶ。

[授業計画と内容]

第１回～第３回：テクストへの導入
「アランについて」、「テクストの背景としての第一次世界大戦について」、「『マルス―裁かれた戦争』の主題について」、基本的な事項の確認と整理をして、テクストを読む準備をする。
第４回～第１４回：テクスト精読
準備作業の中で発見された主題に添って、断片を選び、毎回担当者を中心としながら、テクストの論じている主張を整理し、皆でこれを検討していく。主題ごとに数回かけて、関連する断片を読み進める形とし、それぞれの断片の担当者は、お互いに自分の解釈を提示し合い、議論を重ねることによって、テクストへの理解をより深めていく機会としたい。最終的には、各々の主題ごとに得られた理解をさらに総合して、これらの主題をつなぐアランの視点を求めてみたい。
第15回：まとめ
アランの議論に応える形で、主題を選びそれぞれの「戦争と哲学」論を書いてみる。

ILASセミナー ：戦争と哲学―アラン『裁かれた戦争』（1921年）を読む(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー：戦争と哲学―アラン『裁かれた戦争』（1921年）を読む(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への参加と最後のレポート提出を合わせて評価する。詳しくは授業中に説明する。

[教科書]

基本テクストはコピーで用意する。そのほかにも授業内で適宜プリント等の資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回の題材となるテクストについては必ず読んでくること。

[その他（オフィスアワー等）]